

令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会
兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会
＜Bブロック1回戦＞

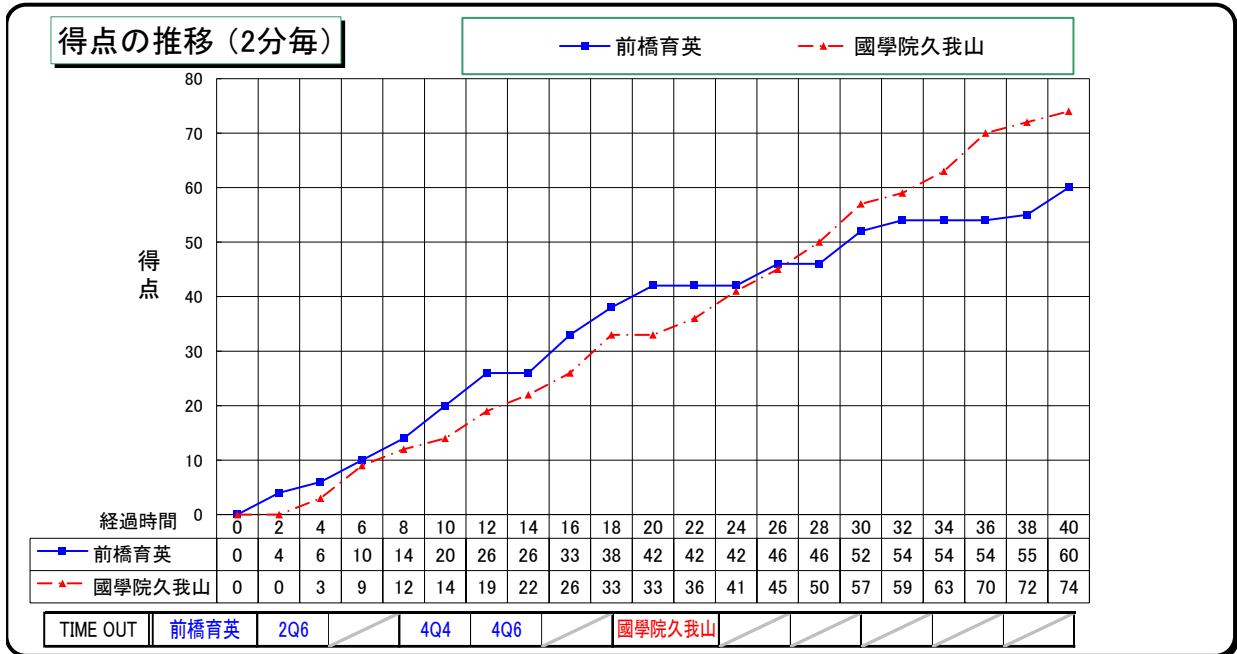
令和5年6月3日(土)	アダストリアみとアリーナ	大会1日目	Dコート	第1試合 9:00～													
<チームA> 前橋育英 群馬		60 <table border="0"> <tr><td>20</td><td>1Q</td><td>14</td></tr> <tr><td>22</td><td>2Q</td><td>18</td></tr> <tr><td>10</td><td>3Q</td><td>25</td></tr> <tr><td>8</td><td>4Q</td><td>17</td></tr> </table>		20	1Q	14	22	2Q	18	10	3Q	25	8	4Q	17	<チームB> 國學院久我山 東京	
20	1Q	14															
22	2Q	18															
10	3Q	25															
8	4Q	17															

主審: 古畑 香子(茨城) 第1副審: 三角 峻(神奈川) 第2副審: 大塩 大地(茨城)

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
◎	4	高草木 琉斗	5	1	1	1	1				1	1	
○	5	ディアロ 阿慈素	4			2	6			1	2	3	1
◎	6	下山 純也	8		2	3	12	2	2	1	4	1	1
○	7	木暮 凌汰	4		1	2	3			3	2		
○	8	増田 聖大	6		2	2	5	2	3		2		1
○	9	元木 琉生			1								2
	10	吉野 綾馬											
◎	11	菊谷 宗右	11		4	5	11	1	4	3	2	4	1
○	12	永井 陸翔			1								
◎	13	レバン ハオ	3	1	1		1			4		1	
	14	片桐 柁哉											
○	15	丸山 颯太	2			1	2			1		1	
○	16	新井 呂依	9	2	10	1	6	1	3			1	
○	17	高橋 駿介	2			1	1						
◎	18	原澤 快吏	6			3	8		2	2	5	3	
		コーチ 田中 亮多											
合計			60	4	23	21	56	6	14	15	18	14	7

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
○	4	川端 一真	35	4	6	11	13	1	1	2	4	3	2
◎	5	石井 友人	7	1	1	2	6			3	4	3	1
○	6	板倉 颯士			1	1					1		1
◎	7	村田 桂次郎	6		3	3	8			3		5	1
○	8	川村 歩											
○	9	石水 怜	2			1	1			1	2		
○	10	藤田 簾	3			1	2	1	2	3	1		
◎	11	澤木 優	2		3	1	3					2	
○	12	鈴木 煌汰	4		5	2	4				1	1	2
◎	13	川上 新心	9			4	12	1	2	2	3	2	
○	14	鈴木 成連					1					1	
○	15	北澤 太輝											2
○	16	安藤 空	2		2		1	2	2	2		4	
○	17	井上 蒼太											
◎	18	伊東 龍生	4		1	2	5				3	7	1
		コーチ 酒井 良幸											
合計			74	5	22	27	57	5	7	16	19	30	8

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート / 2P:2点シュート / FT:フリースロー / F:パーソナルファウル



戦評 記入者: 水越 謙一

Bブロック1回戦、前橋育英(以下、育英)対國學院大學久我山(以下、久我山)。
 第1Q、両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。育英#11菊谷のスティールで先制すると、#4高草、#11菊谷の連続得点で6-0と試合を優位に進めるかに見えた。対する久我山は#13川上がオフェンスリバウンドからのアタックでフリースローを獲得するなど、高さを活かして攻め返す。第1Qは20-14と育英がリードする。
 第2Q、育英は#6下山がミドルシュートを沈め、さらにオフェンスリバウンドからフリースローを獲得するなど点差を広げようとするが、久我山は#4川端の連続3Pなどで対抗する。しかし育英は#4高草、#13レバンの連続3Pなどで点差を広げ前半を42-32で折り返す。
 第3Q、後半も両チーム、マンツーマンディフェンスでスタート。久我山は#5石井、#18伊藤がオフェンスリバウンドから連続得点をあげると、ディフェンスの強度があがり、育英を4分間ノーゴールに抑えるなど流れが変わる。さらに#5石井の3P、#18伊東のパスカットからの2Pで、ついに42-43と逆転する。育英は#16新井の3Pからカウント1スローを獲得するなど応戦するが、勢いに乗った久我山はその後も#4川端が得点を重ね、第3Qを10-25として、52-57と試合をひっくり返した。
 第4Qも久我山の勢いは止まらず、育英を8得点に押さえ込み、#13川上がパスカットから2Pを成功させるなど得点を伸ばした。最終スコア60-74と久我山が高さで勝利、逆転での勝利を掴み取った。